



TEMPUS

テンパス

2006年(平成18年) **25**号



も く じ

企画展1「写真展 貝塚市のいま、むかし」

平成18年度展示会のお知らせ

特別展「ぼっかんさんの平成大修理Ⅰ」

加治・神前・畠中遺跡の調査

古文書をひも解く

和歌山にある「ト半町」の名前の由来

次回古文書講座開催のお知らせ

第2回 重要文化財願泉寺本堂他半解体修理 現地見学会

願泉寺見学会のお知らせ



《貝塚市郷土資料展示室》

企画展1「写真展

貝塚市のいま、むかし」

平成18年5月27日(土)～7月30日(日)にかけて上記企画展を開催します。

貝塚市教育委員会では、変わりゆく郷土の姿を記録にとどめることを目的に、「まちかど定点観測撮影会」を平成8年度から平成17年度にかけて計10回開催してきました。撮影会では、市内130ヵ所に撮影ポイントを設定し、公募した市民の皆様ご自身に撮影を行っていただき、毎年同時期に開催することで変わりゆくまちのようすを記録し続けてきました。

今回の企画展では、撮影ポイントのうち特に大きな変化があったポイントを厳選して撮影写真を展示し、また撮影ポイントに近いポイントを撮影した明治・大正～昭和40年代ごろの写真をあわせて展示することで、過去10年間を中心とした貝塚市内の風景の今昔を紹介します。



平成8年



平成17年

(海塚) 南海本線貝塚駅西口から浜手方面(西方向)をのぞむ



平成8年



平成16年

(脇浜一丁目) 脇浜1丁目交差点から山手方面をのぞむ



平成9年



平成17年

(水間) 府道岸和田牛滝山貝塚線(貝塚中央線) 片山橋から阪和自動車道貝塚インターチェンジをのぞむ

なお、8月12日(土)から9月24日(日)にかけては、貝塚市歴史展示館でも同名のタイトルで展示をおこないます。歴史展示館では、郷土資料展示室では展示できなかった撮影写真も展示する予定です。あわせてご観覧ください。

平成18年度展示会のお知らせ

貝塚市郷土資料展示室および貝塚市歴史展示館では、下記のとおり、平成18年度も郷土貝塚を中心にした展示会を予定しています。内容、日程は以下の通りです。

(貝塚市郷土資料展示室・貝塚市歴史展示館とも、展示の会期・内容につきましては、変更となる場合があります。)

<貝塚市郷土資料展示室>

①「貝塚市の指定文化財」展

第Ⅱ期：平成18年4月1日(土)～5月21日(日)

第Ⅱ期：平成18年8月5日(土)～9月10日(日)

第Ⅲ期：平成18年11月25日(土)～平成19年1月21日(日)

内 容：貝塚市指定文化財の紹介展。考古資料および古文書のほか、パネルにてその他の分野の指定文化財を紹介します。



②企画展2「親子でみよう、なつかしの日本アニメづくり（仮称）」

会 期：平成18年9月16日(土)～10月22日(日)

内 容：1970～1980年代に放映された日本アニメに関する展示。親子で楽しめる展示として、海外でも高い評価を受けている日本アニメの絵コンテ、原画、セル画などを展示し、近年まで主流であったセル画を使ったアニメの制作過程を中心に、初期のアニメのあり方を紹介します。

③特別展「ぼっかんさんの平成大修理Ⅱ－重要文化財願泉寺本堂半解体修理の成果－」

会 期：平成19年2月3日(土)～3月25日(日)

内 容：重要文化財願泉寺本堂他5棟半解体修理事業の調査成果展。本年度は本堂の半解体修理の調査成果を中心に、各種建築部材・屋根瓦・古文書などを展示します。

※上記以外の期間は展示替えのため休室。

※11月上旬～中旬（2週間程度）には市民図書館による展示を開催。

※特別展期間中の2月16日(金)～28日(水)は市民図書館の図書整理休館のため休室

<貝塚市歴史展示館>

①企画展1「写真展 貝塚市のいま、むかし」

会 期：平成18年8月12日(土)～9月24日(日)

内 容：(2頁参照)

②企画展2「泉州をはしる鉄道と沿線の観光名所

－貝塚市内を中心に－（仮称）」

会 期：平成18年9月30日(土)～11月13日(月)

内 容：泉州をはしる鉄道の歴史と沿線の観光名所について関係資料をもとに展示紹介します。

※展示準備・撤収のため、下記の期間を臨時休館とします。

平成18年8月9日(水)～11日(金)、9月25日(月)～29日(金)、11月15日(水)～17日(金)

※上記展示以外の期間は常設展「貝塚市の歴史－近世から近現代まで－」・「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」を開催しています。



特別展「ぼっかんさんの平成大修理Ⅰ —重要文化財願泉寺附築地塀解体の成果—」



本展は、平成18年2月4日(土)から3月26日(日)にかけて開催しました。

本展では、7年をかけておこなわれる願泉寺の半解体修理の概要と、平成16年7月より工事車両の進入路確保のために本堂の解体に先駆けておこなわれた築地塀の解体にともなう調査成果を中心に展示をおこないました。展示内容としましては、写真パネルによって築地塀の解体過程を紹介したほか、築地塀に葺かれていた各種瓦（軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦）および刻印（こくいん）された瓦、瓦片・陶器片などの基礎からの出土遺

物、柱・壁土・小舞（こまい）・桁材（けたぎい）などの各種部材、築地塀に関する普請関係の古文書類を展示しました。また、築地塀の各種瓦（軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦）にふれていただくハンズオンコーナーも設けました。市民のみなさんはもちろん、多くの方々に市内外からご来室いただき、346名の観覧者数を数えました。

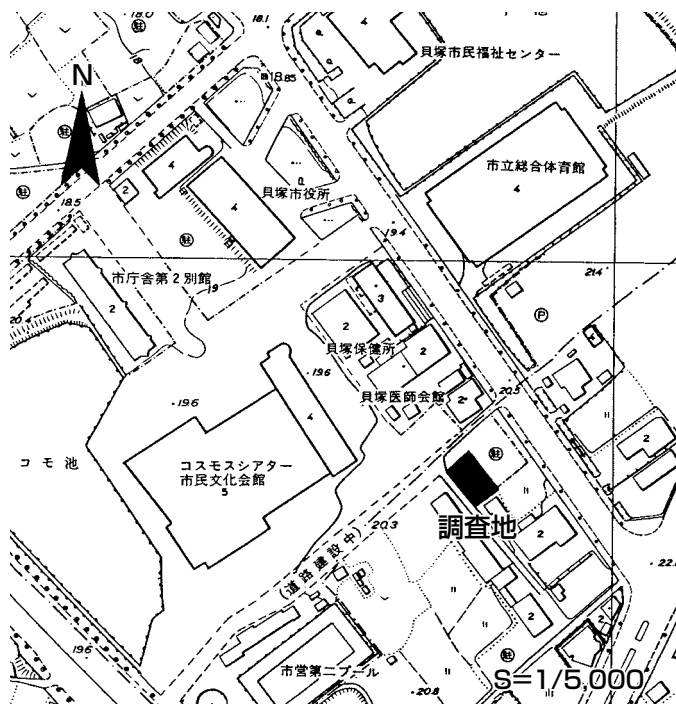


展示会のようす

また、展示最終日の3月26日(日)には、貝塚市職員会館多目的室において、第76回かいづか歴史文化セミナーとして、山岸常人氏（京都大学大学院工学研究科建築学専攻助教授）を講師を迎えて、記念講演会「重要文化財願泉寺本堂他5棟半解体修理について」を開催しました。講演会では、願泉寺本堂について、ほぼ同時期に建てられた大阪府下の真宗寺院本堂と平面構造を比較し、本堂各部分の建築技法を写真で解説いただくことで、その建築的な特色を説明いただきました。また、今回の修理事業の意味についてもお話いただきました。参加者は22名でした。



かじこうざきはたけなか
●●●●● 加治・神前・畠中遺跡の調査 ●●●●●



加治・神前・畠中遺跡は、弥生時代から中世の集落跡です。今回は保健庁舎の山側の民間開発に伴う調査を平成18年3月から4月まで実施しました。これまで市庁舎周辺では道路や建物の建設に伴う発掘調査が数多く実施されてきました。特に、飛鳥時代から平安時代の成果では建物跡、井戸、溝などが発見され、当時の役所と考えられる建物が存在した可能性のあることがわかっています。

今回の調査では、奈良時代と考えられる溝、中世の耕作に伴う鋤溝、近世の粘土採掘土坑（粘土を掘り取った穴）を発見しました。この奈良時代の溝は、コスモシアター、保健庁舎、道路建設時の発掘調査で発見された奈良時代の溝に続くと考えられます。



発見した遺構のようす



粘土採掘土坑



奈良時代の溝

古文書をひも解く

和歌山にある「ト半町（ぼくはんまち）」の名前の由来

昨年度は3度の古文書講座を通して、願泉寺文書を取り上げてきました。講座で取り上げた史料は5千点を超える願泉寺文書の一部分に過ぎません。ここでは、講座で取り上げられなかったテーマの一つ、和歌山にある「ト半町」の名前の由来についてひも解いていきます。

「ト半町」に関する記録として、文化8（1811）年閏2月、和歌山城下ト半町の年寄から、貝塚寺内願泉寺ト半家の家来に宛てられた一通の手紙からはじまり、その後のやり取りを一冊の帳面にまとめたものが残されています。

紀州藩の奉行所から和歌山城下ト半町の年寄に宛てて、「このト半町に貝塚願泉寺ト半家の土地があるが、いつからあるのか？」との問いかけがきっかけでした。ト半町年寄京屋彦右衛門（きょうやひこえもん）は、このお尋ねに対し、町に保管している記録を探したものの、答えは見つかりませんでした。そこで、閏2月2日、ト半家家来山出左門（やまでさもん）・並河主計（なみかわかずえ）に宛てて、質問状を送り返事を求めたのです。

願泉寺からの返答は、古い話であるので詳しくはわからないと前置きをしたあと、「浅野但馬守（あさのたじまのかみ）（長晟（ながあきら）のこと。浅野幸長（よしなが）のあと和歌山の城主となった人物。のちに広島藩主となる。）様の時代、元和元（1615）年頃から、和歌山城下に土地を所持している。今も屋敷があり、ト半家が所持している。屋敷の隣にある芝井氏の住まいが建っている土地も、かつてト半家が所持していたものを、譲り渡したものと伝え聞いている。」との内容で、翌日の閏2月3日、山出・並河両氏から京屋へ手紙が届けられました。

これに対して、閏2月5日、京屋から山出・並河両氏へ手紙が出されました。手紙の中では、土地の面積が、今の屋敷の絵図から表口15間（約30m）、裏行20間半（約40m）と計算でき、その内裏行5間（約10m）は芝井幾十郎（しばいくじゅうろう）の先祖新川左兵衛（にいがわさへえ）へ譲ったと書かれています。

ここで登場する芝井氏の先祖新川左兵衛は、その手紙に添えられた「芝井旧記」と題する文章で、「以前岸和田に住んでいたト半（ト半家2代了閑（りょうかん）のことと考えられる）の甥であり、ト半の娘お絹を妻とした。その後和歌山ト半町にやって来て、土地の一部をト半より譲られた。幾十郎まで10代続くが、4代までは新川の姓を名乗り、医者になってから芝井の姓に改めた。」と述べています。

また、3月29日に、再び京屋から山出・並河両氏へ手紙がやってきます。紀州藩の奉行所から、「慶長14（1609）年の町年寄からの書付に『ト半町』と書いてあり、ト半家が土地を持つのは元和元年よりも前ではないか？」と尋ねられたので、他の記録を教えてほしいとの内容でした。

これに対して、山出・並河両氏は、「享保十八年之貝塚旧記」という史料をもとに、「大坂夏の陣の際、豊臣方の先陣が榎井合戦をおこなっている中、豊臣方の家老で後陣の大野主馬（おおのしゅめ）は貝塚ト半宅に招かれ振る舞いを受けた。このことは徳川方の浅野但馬守と内通していたため、



若山ト半町所持地御尋一件往復書簡写



鷺森御坊（本願寺）とト半町の位置
（安政2年和歌山城下町図）

ト半の計略であった。そのことから浅野但馬守と入魂になり、和歌山に屋敷をもらった。その地を『ト半町』と呼んでいる。」との話を伝え、大坂夏の陣のあった慶長20（1615）（7月に元和元年となる）以降「ト半町」に屋敷をもらったと述べています。

このように、「ト半町」が慶長14年以前にあったとする説と、慶長20年（＝元和元年）以降とする説があらわれ、いずれの説が正しいのかは、他の同時代史料などからの検証が必要です。

しかしながら、信長・秀吉の紀州攻めをはじめとして、大きな戦いの最前線に貝塚の地があったこと、願泉寺ト半家がその戦いに巻き込まれ、政治的に重要な役割を担っていたと考えることは決して間違いではありません。

浅野氏が広島へ移った後、和歌山に入った御三家、紀州徳川氏とも親交を持ち、紀州藩の参勤交代には貝塚に本陣が置かれました。また、「ト半町」の屋敷は、こうして紀州藩との結びつきを強固にする役割を担っていたと思われます。

最後に現在の「ト半町」は、南海和歌山市駅前を南東方向に伸びる道と県道とが交わる場所から、市堀川に架かる城北橋の東側に位置しています。江戸時代の面影を残すものではなく、現在は商業ビルが立ち並んでいます。立地条件からか、時代の変化を大きく受けた場所であったと言えます。

ところが、この「ト半町」を北に300m進むと、本願寺鷺森（さぎのもり）別院があります。かつて、顕如（けんによ）が紀州鷺森から泉州貝塚の地へ移ったこと、その鷺森と「ト半町」との距離の近さに、浄土真宗との結びつきから「ト半町」と名付けられたのかも（慶長14年以前説）と考えたりもします。さらに、和歌山以外にも、大坂に「ト半町」（現在の大阪市中央区島之内二丁目の一部）がありますが、こちらは願泉寺ト半家とどのような関わりがあるのかも全くわかりません。「ト半町」をめぐる話は、なかなか解き明かせない、謎が謎を呼ぶミステリーと言えそうです。



鷺森別院（紀伊国名所図会）

次回（第22回）古文書講座開催のお知らせ

「貝塚市にのこる中世文書」

貝塚市内にのこる古文書のうち、鎌倉・室町時代の古文書やその写しをテキストに、なぜこの古文書が作られたのか？当時の時代背景はどうであったか？といった点に注目し、史料を読み解いていきます。

日 時：平成18年5月13日－初心者講習、5月20日－第1回、6月3日－第2回、
6月10日－第3回、6月17日－第4回、いずれも土曜日午後2時～4時30分

場 所：貝塚市民図書館2階視聴覚室

申 込：必要事項（住所、氏名、電話番号）を明記の上、はがき・E mail・F A X・電話
いずれかの方法で、下記申込み連絡先まで事前をお願いします。

申込み連絡先

〒597-8585 大阪府貝塚市畠中1-17-1 貝塚市教育委員会 社会教育課

T E L 0724 (33) 7126 / F A X 0724 (33) 7107

E mail shakaikyoiku@city.kaizuka.lg (エル・ジー) .jp

第2回 重要文化財願泉寺本堂他半解体修理 現地見学会

本見学会は、平成18年4月16日(日)午後2時より願泉寺主催の見学会と同時に開催しました。

見学会では、願泉寺修理の設計管理を行う財団法人文化財建造物保存技術協会大阪支部 重要文化財願泉寺本堂他5棟 設計管理事務所の後藤玉樹氏の案内のもと、解体がほぼ最終まで進んだ願泉寺本堂の現状を見学いただくとともに、工事用覆屋（素屋根）内に展示された屋根瓦・部材・欄間彫刻・内陣部分の天井絵などをご覧いただきました。

見学会当日は久しぶりの良い天候にも恵まれ、事前に申し込みいただいた方のうち59名の参加を得、願泉寺側の見学者と合わせて100名近い方々にご参加いただきました。参加者の中には解体された願泉寺本堂をはじめて間近で見られた方も多かったようで、使われている材木の大きさや当時の大工さんの仕事振りに大変驚かれていました。また、案内の後藤氏には展示された屋根瓦・部材等について丁寧にご説明いただき、参加者のみなさんも熱心に耳を傾けて聞いておられました。



願泉寺見学会のお知らせ

願泉寺では、平成18年1月より、毎月第3日曜日に本堂半解体修理の見学会をおこなっています。教育委員会では、本見学会を後援しています。見学会当日は工事用覆屋（素屋根）内を自由に見学いただけますので、ご興味・ご関心のある方はぜひご参加ください。

開催日 ①平成18年5月21日(日) ②平成18年6月18日(日)

※7月は夏祭りのため中止、8月以降は現在未定となっています。

時 間 午前10時～午後4時（時間内の見学は自由）

※午前10時30分と午後1時30分からの1日2回、後藤氏による説明がおこなわれます。

表紙の写真

表紙の写真は、発掘調査（5頁）の測量風景です。レーザー測量という方法で本市では、はじめて行なう測量方法です。遺跡測量専門の業者が測量を行ないました。1セット数千万円の測量機器を使って、パソコンで確認しながらの作業です。遺跡測量の方法も日進月歩でこれまでヘリコプターを使った航空測量が多かったのですが、ヘリコプターの飛べない条件の悪い場所では今回の測量方法が有効なのだそうです。もちろん手書きでの実測も行なっています。

かいづか文化財だよりテンプス25号



平成18年4月30日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

Tel (0724) 33-7126 Fax (0724) 33-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷 (株)和歌山印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：67.20円